

P1.2 大津百町大博覧会

P3~5 企画展 大津百町
- マチから始まるモノがたり -P5 ミニ企画展 大津の古文書6
大津百町の誕生P6 学芸員のノートから
緑色（緑青）の退色からわかる、
お軸の重要度の違い

大津歴博 だより

博物館とまちなかで歴史探検！

大津百町大博覧会



大津市指定文化財 大津町古絵図 江戸時代中期 個人蔵

おおつひやくちょう

「大津百町大博覧会」は、大津市の中心市街地、いわゆる「大津百町」に焦点を当て開催するものです。会場は、歴史博物館と百町のまちなかに設け、博物館と市民グループ、大学等が共同して開催します。これは、各会場での展示をご覧いただいた後、現在の大津百町を実際にご覧いただきたいという願いによるものです。マチは生き物のように日々変化していきます。皆さんが履歴書を書かれるように、私たちは、「大津百町の履歴書」を作り、変化の記録を残しておくことが必要だと考えています。是非とも、それぞれの会場や百町の市街地を巡っていただき、皆さんが体験された貴重な思い出や、これからのマチに対する思いを、この大博覧会にお寄せいただければと思います。皆さんと一緒に、「百町の履歴書」を完成させたい。それが、この大博覧会の大きな目的なのです。

大津市歴史博物館



大津百町大博覧会

会場：大津市歴史博物館・大津百町一帯

大津市歴史博物館会場

企画展 大津百町－マチから始まるモノがたり－

3月2日(土)～4月14日(日)

観覧料 一般：800円(640円)、高大生：400円(320円)、小中生：無料
()内は15名以上の団体、市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方の割引料金

ミニ企画展 大津の古文書6 大津百町の誕生

2月26日(火)～4月14日(日)

まちなか会場 旧大津公会堂

(大津市浜大津一丁目4-1)

あなたの思い出をお寄せください

百町をマッピング!－地図と写真と思い出と－

3月16日(土)～4月14日(日)

古い地図や写真を見ると、当時の様々な思い出がよみがえります。本展では、ちょっと昔の地図や写真、また昭和40年代の浜大津周辺の精密な模型などを展示します。これらに是非とも皆さんの思い出を書き加えてください!

【企画：大津市歴史博物館】

写真がつなく過去と今。－物語がつむぐ人とまちの未来。

オールドオーツ『物語の誕生』2013

3月16日(土)～3月31日(日)

家庭のアルバムに眠る思い出の写真を手掛かりに、それにまつわるお話をインタビュアーが聞き取り、写真と物語で一枚のパネルを作り上げました。それを語り手と聞き手の共同作品として、みなさまにご覧いただけます。

【企画：シネファンク】

まちなか会場 大津百町館

(大津市中央一丁目8-13、丸屋町商店街内)

古老が語る大津百町の思い出

証言VTRでたどる百町むかしがたり2013

3月16日(土)～3月31日(日)

人々のキオクの中に残る百町の思い出を、映像で記録する試みです。懐かしそうに話される方々の様子に古い写真を織りまぜてビデオを制作しました。かつての百町での生活の様子を、皆さんのキオクに重ねあわせてみてください。

【企画：いまきいとき隊】

学生たちが写真で表現する大津の現在

大津百町2013－まちなかの記録－

3月16日(土)～3月31日(日)

成安造形大学の学生たちが、現在の大津のまちなかの様子を記録することをテーマに、それぞれの問題意識・表現で作品制作を行なう写真展。学生たちが取材を通して見た大津百町をご覧ください。

【企画：成安造形大学写真メディア研究室】

※会期は催し物により異なりますのでご注意ください。お休みの日は各会場とも月曜および3月21日です。まちなか会場は無料でご覧いただけます。



重要文化財 東海道分間延絵図 江戸時代後期 東京国立博物館蔵

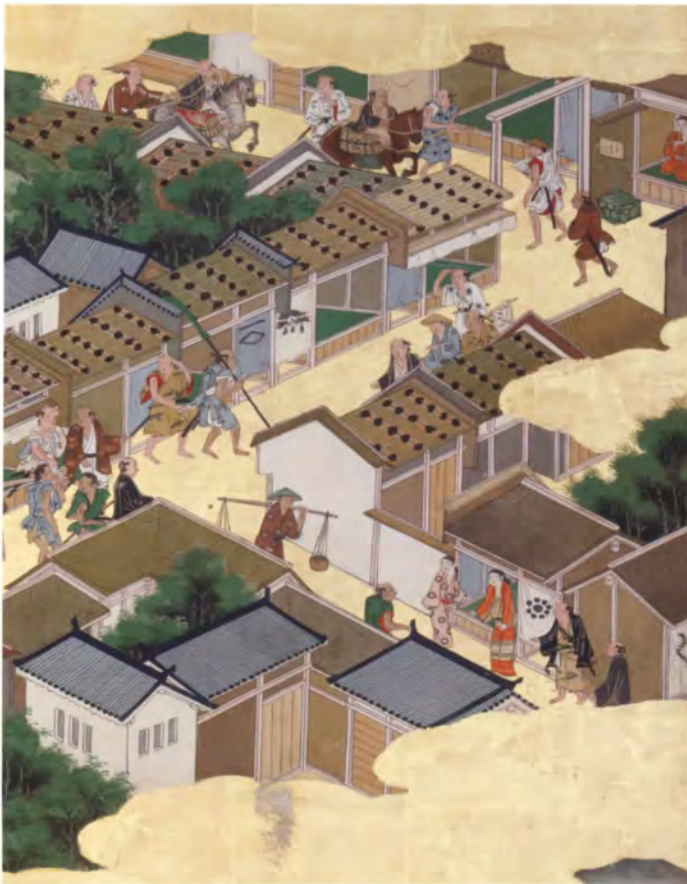


ほうろうかんばん
旧町名の珙瑯看板
残されたものは少ない

第60回企画展

大津百町 — マチから始まるモノがたり —

まちなかに残る痕跡から歴史を探る！
絵図や絵図面、古写真などによるマチの「履歴書」づくり



日吉山王祭礼図 元禄年間 本館蔵



近江八景 矢橋帰帆 歌川広重画 栄久堂版
天保年間 本館蔵



しょうこまるにしきえ
蒸気船涉湖丸錦絵 明治初年 本館蔵

会期 ■ 平成25年3月2日(土) → 4月14日(日)

中心市街地活性化の諸活動で、「大津百町」という言葉がよく使われます。これは、江戸時代からあった呼び名で、港町・宿場町・門前町として繁栄した大津町を表現する用語なのです。江戸時代中期の記録には、大津にちょうど100ヶ町の町名が列挙されています。たとえば上京町、中堀町、元会所町、枅屋町などなど。これらの町名は、昭和40年(1965)に実施された住居表示の変更で、何丁目表記になってしまい、今は自治会名として残されているだけです。

今回開催する企画展「大津百町—マチから始まるモノがたり—」では、大津百町を、現在から過去へとさかのぼり、その成り立ちなどを紹介します。年配の方は、戦後の高度経済成長による湖岸の埋め立てや、まちなかでの道路拡張、山手などでの住宅開発を目の当たりにされ、その変化の有様を体験されていることでしょうか。時期を戦後に区切ってみても、かつての大津百町周辺はかなり変貌を遂げています。では、戦前はどうかだったのか。大正や明治、さらにさかのぼって江戸時代はどのような風景だったのか。その変貌を、できるだけ詳しく記録しておくことは、大切な事だと思います。ひとつの建物が壊されると、さて、以前はどんな建物だったか思い出せない。人間の記憶は、なんと曖昧なことでしょう。変貌の記録を残す。それは「履歴書」づくりと同じです。

本展の目的は、大津城が築かれた戦国時代から現在までの「大津百町の履歴書」を作ることにあります。そういう視点でまちなかを歩くと、その変貌の過程を示す痕跡が、案外残っているものです。「えらい細長い公園やなあ」「こんなところに石碑があるぞ。なんか文字が刻まれているなあ」「この石垣は一体全体、何なんだろう」。まちなかを歩いていて疑問に思うことはたくさんあります。その痕跡が戦後のことなら、近くのお年寄りに聞けば分かるかもしれませんが。でも、大正や明治のことならお手上げです。ましてや江戸時代の出来事を体験された方は居られません。そこで重要になってくるのが、明治や江戸時代以前の絵図面や絵画、古文書です。また、明治以降なら古写真なども解決の糸口になります。

今回の企画展では、そういった資料をたくさん展示し、またお年寄りのお話も参考にしながら、「大津百町の履歴書」をこしらえてみました。

3頁の「東海道分間延絵図」は、文化3年(1806)完成の絵図で、そのうち大津の湖岸部分を拡大してみました。扇屋関、風呂屋関、玄正関、永原関などと記された、湖中に延びる栈橋が見えています。これら「関」の文字が付いた場所は港の荷揚場でした。港町・大津百町の横顔を示すものです。京阪の駅名や町名に残る「島の関」、最近まで市民会館付近の交差点名だった「紺屋関」も、昔の荷揚場の名残です。同じく京阪の駅名や町名として残るものに「石場」があります。これは「急がば回れ」という有名な諺に関係しています。江戸時代、石場や小舟入と対岸の矢橋を結んでいた渡し船が、そのルーツ。しかも近江八景「矢橋帰帆」は、この渡し船が題材となっ



明治末年の川口堀 【大津市志】下巻より
今は埋め立てられて細長い公園になっている。



呼次松児童公園内に残る石垣



昭和10年代の札の辻停車場 大津商工会議所蔵



大津城推定縄張図 本館蔵

ています。

石場の港は、現大津警察署付近（打出浜）で、そこには高さ8mの立派な常夜燈がありました（現びわ湖ホール横）。この常夜燈は細部の意匠が素晴らしく、当時の石工の心意気がうかがえます。

絵図面も町の成り立ちを解き明かす重要な資料です。表紙の「大津町古絵図」を見ると、御蔵と代官所が湖中に突き出していて、その左右（東西）に内陸部まで

湖水が入り込んだ舟入が描かれています。この御蔵などの突出部が、実は戦国時代に築かれた大津城の本丸部分を再利用したものであることが、地元の郷土史家・田中宗太郎氏（故人）の研究によって明らかになりました。先の「大津町古絵図」と上の「大津城推定縄張図」を見比べてください。実は、この突出部の地形の痕跡も、戦前までは残っていたのです。その話は企画展で詳しく紹介します。どうぞお楽しみに。

第103回 ミニ企画展

大津の古文書6 大津百町の誕生

会期：平成25年2月26日（火）～4月14日（日）

江戸時代の大津百町は、東海道の宿場町、琵琶湖水運の港町、そして三井寺の門前町として発展していきます。本展は、企画展「大津百町」と連動して、百町が誕生する以前の室町・戦国時代の様子、また太閤検地を経て発展していく町の姿を、町人の組織や年中行事に関わる古文書や古絵図などから紹介します。あわせて古文書読解ポイントや鑑賞方法も紹介します。古文書に記された文字や形から、一緒に百町の歴史を考えてみましょう。



豊臣氏奉行人連署状文 文禄5年（1596）
個人蔵

長東正家・前田玄以の出した文書。
大津町屋敷の検地実施を記す重要資料。



年中行事定書 天保9年（1838）
太閤町自治会蔵

江戸時代の太閤町の講や祭礼だけでなく、生活規則や贈答など70箇条に渡って定められた条々。

緑色（^{ろくしょう}緑青）の退色からわかる、お軸の重要度の違い



第一幅



第二幅

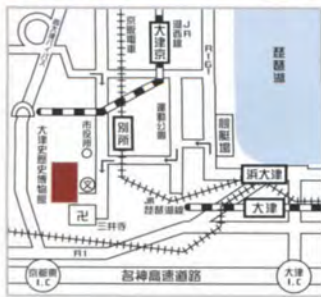
絹本着色蓮如上人絵伝 2幅 室町時代 等正寺蔵

この二幅は同時に造られたものですから、基本的には傷み具合は同じはずですが、「蓮如上人絵伝」は造られるお寺によって内容が異なることで知られていますが、その寺独自のところこそもっとも宗教的に重要な部分です。等正寺本は、第一幅は蓮如上人の一般的な内容で、第二幅がŌtsuにおける蓮如上人の活動を表していますから、こちらが本寺のオリジナルな内容なのです。つまり、本寺にとって第二幅のほうが絵解きすべき宗教的に重要な内容が描かれているため、おそらくこちらだけを掛けて絵解きを行っていたことが多々あったのでしょう。この緑色の退色の具合が使用頻度の違い、さらには重要度の違いを物語っているのです。（本館学芸員 寺島典人）

大津市小関町の^{とうしょうじ}等正寺（真宗大谷派）に伝わる「絹本着色蓮如上人絵伝」は、本願寺第八世の蓮如上人の生涯のエピソードを描いた2幅からなるお軸ですが、その保存状態から興味深いことがわかる宝物です。第一幅には「蓮如の誕生」から「大津逢坂の危機」といった、蓮如上人が京都から大津に来るまでを、第二幅は「堅田源右衛門、源兵衛親子の漁の様子」や「近松で身代わりになって毒を食べた犬」という、主に大津での出来事を描いています。このお寺は堅田源兵衛伝説に関係深いところで、この絵伝を使って蓮如上人の布教の様子を解説する「絵解き」が行われていたことでも著名です。

今回、この絵伝は「阿弥陀さま」展に展示するにあたり文化財修復を受けました。修復担当の方とお話をしているうちに、第一幅と第二幅では傷みの進み方が違うことに気が付きました。それは、第一幅は比較的緑色（緑青）が残っていますが、第二幅にはほとんど緑色がありません。

ご利用案内



- 交通機関
 - ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
 - ・JR 大津京駅 徒歩 15 分
 - ・JR 大津駅、バス 10 分別所下車
- 駐車場 約 70 台（無料）

■常設展示観覧料

区分	個人	団体(市部以上)
一般	210 円	160 円
高校生・大学生	150 円	120 円
小学生・中学生	100 円	80 円

- ◆大津市内在住の 65 歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日に限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前 9 時～午後 5 時（展示室への入場は午後 4 時 30 分まで）

■休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）
 祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
 年末年始（12 月 27 日～1 月 5 日）
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

■歴博カードのご案内

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大生	小中生
	2,000 円	1,500 円	1,000 円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町 2 番 2 号
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>